発行所 〒102-0083
東京都千代田区麹町4-5 海事センタービル内
公益社団法人日本海洋少年団連盟
電　話 03(5213)4778
（年6回奇数月の1日）
購読料　1部10円（送料実費）
会員会費には購読料が含まれる
振替東京 5－13846番

海洋少年団通信 海っ子

Japan Sea Cadet Federation

ペンタン

ちかい

1. 海のような広い心で団結しすべての人を友とします。
2. からだをきたえ、心を養い立派な海の子になります。

浜名湖海洋少年団 結団式

静岡県に2団目となる浜名湖海洋少年団が発足し、1月28日に浜松市の遠鉄百貨店新館会議室において結団式が行われました。

式典には、名誉団長の塩谷立衆議院議員や鈴木康友浜松市長等多くの来賓や関係者が出席し、祝辞や挨拶をいただきました。日本連盟の林正次副会長からは神間智博団長に団旗が授与されました。

団員代表の伊藤奨麻さん（高1）は、「浜名湖を愛し浜名湖を守り、自らの命を守り、地域を守れる大人を目指して元気に活動してまいります」と決意を述べました。

団長挨拶

浜名湖は海水と淡水がまじりあう汽水湖で、日本第4位の面積を有する湖。また、太平洋の大海原に広がる遠州灘は常にダイナミックで人々の熱い心を奮いたせます。また、この地域には古くから船外機を主軸とするマリン産業が芽生え、これほどの素晴らしい環境に恵まれながら海洋少年団が存在しないのが不思議でありました。

まさに、「ビーチ・マリンスポーツの聖地」浜松市に本拠地を置く浜名湖海洋少年団設立は、待望論の中で産声を上げました。

浜松市は徳川家康公が青年期に艱難辛苦を克服し、のちに大成したことから「出世のまち」と言われています。また、スズキ、ヤマハ、ホンダ等の創業者も浜松市で創業したことから「やらまいか（やってみよう）精神」がいまだ生きております。

その一方で、浜名湖の西岸に位置する湖西市は、トヨタ自動車の祖「豊田佐吉氏」の生誕の地でもあり、両市の共通点は情熱に満ちた都市であることです。

近年、学校の部活動が見直されていく中、子どもたちが我を忘れて夢中になる場が失われてしまうのではないかと危惧していますが、結団式では、多くのご来賓の皆様から自然の中で学ぶ私たちの理念に大いに賛同・期待するという声が聞かれました。

浜名湖海洋少年団では、オイスカ浜松国際高等学校マリンスポーツ部の生徒たちが低学年の子どもたちのリーダーとして活動をけん引します。またボーイスカウトとの連携も当団の特色といえましょう。地域柄、市内外に住まう釣りやヨット、カヌー等の有識者も多いことから、相互の協力体制、幅広いネットワークを十二分に活用し、多様性に富んだ活動を展開してまいります。

日本連盟表彰 山縣賞 千葉新宿団・千葉北部団が受賞

「千葉県連競技会2022」が12月18日に稲毛ヨットハーバーで実施され、千葉新宿団・千葉北部団・船橋団が参加しました。

併せて、千葉新宿団と千葉北部団に今年度の日本連盟表彰・山縣賞（福原賞を受賞し引続き活発な団活動をつづけ、かつ、全国大会や各種大会を主管するなど顕著な功績があったと認められる団に授与する）の授賞式を行いました。本来なら、全国大会の折に会長が表彰するものなのですが、大会が中止になったことから今回直接授与することになったものです。

授賞式では日本連盟中島参与から千葉新宿団の泉団長へ表彰状が授与されました。

当日は、団員26名をはじめ、指導者、保護者16名が集まり、午前中は競技会、午後は昼食をはさんで、競技の表彰式が行われました。

全国大会に登録していた人には用意されていたバッジが贈られました。

褒状山縣賞受賞者決定

令和4年度の褒状山縣賞は次の4名に授与が決定しました。

（八戸団・卒団予定者）
田頭　南帆

（日白台団・準指導者）
鈴木　祥音

定友　聖

（福岡団・卒団予定者）
増田　圭佑

3月24日に授与式を行い、続いて羽田航空基地の施設見学を行います。25日～26日は、静岡県三ケ日青年の家にて海事研修を行う予定にしています。

国際委員会開催

2月18日、2022年度国際委員会が開かれました。

今年度の決算見込、来年度の予算、2025年のISCA（国際海洋少年団協会）年次総会（日本開催）に向けての特定費用準備資金保有金額の増額（正式には理事会決定）が原案通り決議されました。

国際交流について、海外からの招待状は現在韓国のみで、詳細は未定ですが、7月下旬～8月上旬で実施する予定です。

他の国からの招待状も含め、情報が入り次第ホームページ等でお知らせします。

〈お知らせ〉

令和4年度　第二回通常理事会
【日時】令和5年3月17日（金）
【場所】日本船主協会役員会議室
（東京都千代田区平河町2－6－4海運ビル）

令和5年度　第一回通常理事会
【日時】令和5年5月12日（金）
【場所】日本船主協会役員会議室
（東京都千代田区平河町2－6－4海運ビル）

令和5年度　団長会議・定時総会・臨時理事会
【日時】令和5年6月9日（金）
【場所】ホテルマリナーズコート東京
（東京都中央区晴海4－7－28）

※詳細については決まり次第お知らせします。

今月の主な記事

2面　チャレンジ事業、各団活動報告
3面　全国各地で初訓練、昨年の返りと今年の目標
4面　各団活動報告、みどりの広場
4コママンガ、連盟だより

絵画募集 第51回 絵画コンクール 我ら海の子展

全国の少年少女の皆さん、「船」「海や船で働く人」をテーマにした作品を募集する予定です。海洋少年団の皆さんも積極的に応募してください。

募集期間
令和5年4月1日～6月30日

■テーマ　「私の海」／船舶、海や船で働く人、海の環境保全、海の生物など、海を自由に表現
■応募資格　中学生、小学生、幼児
■規　定　・4つ切り画用紙（38×54cm）、タテヨコは問わない
・絵の具・クレヨン・貼り絵など自由
・裏面に郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号、学校または幼稚園名、学年を明記
（海洋少年団員は団名も記載すること）
■賞　国土交通大臣賞（予定）
（中学生の部、小学生高学年の部、小学生低学年以下の部）、日本海洋少年団連盟会長賞他多数
■作品の送付先　〒102-0083 東京都千代田区麹町4-5
海事センタービル内
（公社）日本海洋少年団連盟「我ら海の子展」宛
■主　催　（公社）日本海洋少年団連盟
（一財）サークルクラブ協会
■お問い合わせ　日本海洋少年団連盟（TEL03-5213-4778）

第50回受賞作品
国土交通大臣賞　中学生の部
江幡 海斗（中3）
「明日への希望～誇り高き使命をのせて～」

日本海事センター 補助事業

2022年度チャレンジ事業

団活動の活性化、広報活動、地域との連携などを目的としたイベントを行いました。
今年度に行った活動を紹介します。
①開催日　②イベント名　③活動内容　④参加者数　⑤成果等感想

南勢団

①7月10日 ②水中ドローン観察会　③水中ドローンで海中のモニタリングやゴミの回収を行う。カッター体験乗船　④団員を中心とした町内の小学生、保護者等24名　⑤地元住民から参加者を募り、岸壁から漁業にも使用されている水中ドローンを使用して地元の海の観察会を実施した。主に水深3メートルの観察では、海藻や魚が映し出され、子どもたちは興味深そうにモニターをのぞきこんでいた。今回海中にはゴミがなかったので回収作業は行わなかった。観察会のあとは、カッターの体験乗船を行った。「ドローンの操作はゲーム感覚で楽しかった。」「いつもは海の上をカッターで漕いでいるので海の中を観察できるのは新鮮だった」との感想があった。

佐伯団

①8月21日　②親子カヌー体験会　③二人乗りカヌーの体験、活動パネル展示、オリジナル缶バッジの作成配布等　④12家族35名　⑤コロナ感染者が増えている中、感染防止に努め、市報やフェイスブックなどで広報に努めた結果、昨年度と同規模の参加者がありました。この事業は今年で4回目となりますが、昨年に引き続き、地元ケーブルテレビや地方新聞の取材もあり、一般にも認知されてきているように感じました。

石垣団

①8月28日　②幻の島ピクニック遠征航海　③石垣港から竹富町浜島(通称幻の島)まで、6マイル（約10㎞、所要時間2時間）の海を自力で航海し自信をつけ我慢強さを培い共同作業での達成感を得る。④9家族28名　⑤当日は天候に恵まれたが、無風のため曳航して出港した。竹富島近くになり風がでてきたのでセーリングを開始。浜島に到着してからは、シュノーケリングや船からの飛び込み、スイカ割りなど、新入団員候補の3名も参加し、それぞれ楽しんだ。

佐世保団

①5月22日、10月30日　②体験入団会　③手旗・ロープワーク体験・洋上体験・活動紹介・アウトドア・段ボールピザ窯作り等　④15名　⑤2回にわたって体験入団会を行った。1回目は活動紹介を中心に午前の部と午後の部で手旗やロープワークの体験会、ビデオ上映、保護者目線での説明や質疑応答を行った。2回目はピザやホットドック作り等のアウトドア体験を行った。いずれも楽しんでくれたようで入団者は1名、再度見学者3名の希望があった。

①10月7日～31日　②佐世保団活動写真展　③佐世保市役所連絡通路にて活動を紹介するパネル写真を展示。④⑤佐世保団70周年を記念して展示した活動写真は市役所の連絡通路ということもあり多くの市民の方々に見ていただくことができた。

宜野湾はごろも団

①8月27日～28日　②慶良間諸島渡嘉敷島への冒険ヨット航海と現地の子供達との交流会　③ヨット操船、ビーチクリーン、渡嘉敷島の子供たちとの交流等　④41名　⑤宜野湾マリーナから渡嘉敷港までヨットでの航海をした。途中天気が不安定で大雨になり竜巻などを目撃したが、避けて進み早めに着いた。渡嘉敷島では、海岸でビーチクリーンを行い、漁具や流れ着いたペットボトルなどを拾い集め、きれいになった海で海水浴を楽しんだ。夜には渡嘉敷島の子供達とバーベキューや天体観測で交流を深めた。

あきた団

☆酒田団と合同合宿開催☆

10月8日、9日の1泊2日で、あきた団と酒田団は、秋田県立岩城少年自然の家において合宿を行った。あきた団が設立された令和元年度に酒田団主催で行って以来3年ぶりで、今回はあきた団の主催で行った。

1日目は、開会式終了後に両団員の緊張をほぐす意味合いも込め、PA（プロジェクトアドベンチャー）を行い、お互いを知ることから始めた。

その後、体育館で基本動作・ロープワーク・手旗の検定会を行った。団員12名のうち、3種目で満点だったのは2名だったので、お互いの団では、これからの訓練の課題を見つけることができた合宿となった。

夕食後は、部屋割りのグループに分かれ、近隣の森でのナイトハイクや団員待望の豪華景品が当たるガチャガチャ抽選会を行い、この日一番の盛り上がりをみせた。

2日目は、国旗・団旗の掲揚と降納体験をし、扱い方を全員で学んだ。その後レクリエーションやロープワークの補習後、閉会式を行い終了した。

当初は、緊張しあっていた団員が、お互いに名前で呼び合うなどすっかり仲良くなり、それが本合宿の一番の目的であったので何よりの収穫だった。

秋田県内でも「3年ぶりの開催」という行事が多々あった年で、コロナ禍でも活動ができると実感した。

今後も、団員たちにたくさんの経験をさせて、海洋少年団活動を盛り上げていきたい。

船橋団

☆千葉県連競技会☆

昨年末の12月18日に、千葉県連競技会を、千葉新宿団・千葉北部団・船橋団で行いました。中止となった全国大会の代替開催です。

中学生以上は、手旗・ロープワークともに手堅い成績を残していましたが、小学生は、手旗にまだ少し不安が残るかなという感じでした。船橋団は特に練習不足が見られました。

お昼には、千葉新宿団・千葉北部団指導者特製の温かい肉うどんをご馳走になり、午後は3団一緒に楽しくレク・タイムを過ごしました。

団員たちが外で元気に走り回るのを見るのは嬉しいものです。

ところで、小学校4年生以上は全国大会に参加の経験があるのですが、3年生は未だ全国大会の経験がありません。彼らにも早く全国大会の雰囲気を味わってもらいたいところです。

全国各地で初訓練

中日団

1月15日、名古屋港海洋トレーニングセンターにて、訓練はじめを行いました。

新型コロナウイルスの影響で、しばらく年明け早々の訓練はじめができない年が続きましたが、久しぶりに実施することができました。

当日は快晴に恵まれ、晴天の空の下、手旗信号にて「アケマシテオメデトウゴザイマス」の送信を行いました。

清水団

1月15日、今年初の活動日に東海大学海洋学部博物館を見学しました。恐竜の博物館や駿河湾の生態をわかりやすく見ることができる水族館ですが、今年3月に有料入館を終了し、今後は研究機関として存続していくとのことです。

団員達の多くは何度も来館していますが、2時間余りの見学をとても楽しそうに過ごしていました。新型コロナの影響でイベントは控えていましたが、今後は時流に沿った形でまた積極的に再開していきたいです。

船橋団

1月22日、船橋大神宮にて安全祈願祭を行い、29日には、初訓練としてカッターで海に出ました。この日の朝は強烈寒波の余韻で冷え込みが厳しく、船橋漁港近くの海面には氷が浮かんでいました。

このような寒さの中でも団員達は元気です。教育級の団員達も重いオールを2人1組で何とかしようと頑張りましたが、やはり先輩達の助けが必要でした。彼らが一人でオールを扱えるようになるには、あと1、2年必要のようです。

神戸団

1月9日、神戸団の新年初活動は、垂水区総氏神の「海神社」（わたつみじんじゃ）への初詣です。天気も穏やかで初詣日和でした。

海神社では、今年一年の活動の無事を祈願しご祈祷を受けてきました。

今年はみんなでウサギの様に大きくジャンプして飛躍の年にしましょう！

敦賀団

1月15日、初訓練を氣比神宮の境内で行いました。まずは北條団長の訓話を聞いてから初詣を行い、手旗初打ち（奉納）を行いました。

当日は、どんど焼きの日と重なったため、氣比神宮の周りは車が渋滞し、多くの人が正月飾りなどを燃やしに訪れていました。

試験や体調不良で何人か休みの団員がいましたが、それでも多くの団員が参加し、幸先の良いスタートを切ることができました。

四日市団

1月29日、約2年ぶりの団内交流イベント（餅つき）を三重県の尾高高原にて行いました。

充分お餅を食べれるよう、餅つきの前に、尾高高原の散策や広場で雪合戦や雪だるまを作り遊びました。団員たちは思い思いに杵で餅をつき、初参加の団員は、もち米がどんどんお餅になっていくのを見てビックリした様子でした。

団員だけでなく団員の家族や指導者も満足そうに出来上がったお餅を口一杯に頬張りました。

2023年 卯年生まれの団員に聞きました!!
昨年の振返りと今年の目標

南勢団（三重県）　橋川　暉

ぼくが昨年一番がんばったことは手旗です。最初はとちゅうまでしかうてなかったので、がんばって「イ」から「ン」まで覚えてうてるようになりました。あとは受信を完ぺきに覚えたいと思います。

ロープワークは、ぼくはどちらかというと苦手でしたが、団長や副団長やリーダーに、てやっかいねいに教えてもらってと何種類かの結び方ができるようになりました。

今年は手旗やロープワークをさらに上達させて、全国大会に出たいです。

南勢団（三重県）　橋川　煌

昨年、海洋少年団に入団して一年近くがたちました。

海洋での活動はものすごく楽しいです。はじめのほうは手旗もロープワークもあまりできませんでした。だけど、手旗も少しずつ覚えて意味がわかるようになってきました。ロープワークも、結び方を何回も練習していると、できるようになってきて面白くなってきました。

いろんな結びかたがあると知りました。

今年は、手旗やロープワークをもっと練習して頑張りたいと思っています。

楽しんで続けていきたいです。

福岡団

1月8日、福岡団の訓練初めは、恒例の洋上三社参り（筥崎宮と能古島の白髭神社、志賀海神社）でスタート。

今年は天候にも恵まれて、全員で訓練の安全を祈願してきました。

訓練所に戻ってからは基本訓練をしました。今年も元気いっぱい頑張ります！

舞鶴団

舞鶴団の有志が、1月8日に舞鶴市の朝代神社へ初詣に行きました。昨年は、コロナの影響で行動に制限がかかり、思うように活動ができていませんでしたが、今年こそは、コロナが落ち着き、のびのびと活動できるようにとお祈りしました。

それにしても、団員の体の成長に驚くばかりです。あっという間に指導員の身長を追い越していきます。

横須賀団

☆防大生「ボランティア活動同好会」が支援☆

（左）山﨑主将

　昨年秋に、防衛大学校で、様々なボランティア活動を行う「ボランティア活動同好会」が設立され、横須賀団の活動を支援してくれることになりました。

　横須賀団では、同好会について山﨑楓雅主将にインタビューをしました。

Q.同好会について

A.この同好会は、海洋少年団への支援補助や校内の記念碑や展覧物、地域の清掃を主な活動とし、約50名の学生が在籍しています。

Q.海洋少年団活動に参加した感想

A.海洋少年団には明るくパワフルで好奇心旺盛な子供たちばかりで元気をもらえますし、私たちも一緒に楽しませてもらっています。

Q.今後の展望、アピールポイント

A.この同好会は、学生の自由なボランティア精神を基調として活動しており、今後も支援補助として安全教育など横須賀団とのさらなる密着強化を考えています。

四日市団

☆巡視艇「あおたき」にて体験航海☆

　11月6日午前9時30分より団員・指導者・保護者総勢約20名は、四日市海上保安部所属の巡視艇「あおたき」（消防型）に乗船させて頂き、四日市港沖を体験航海しました。

　途中、巡視艇の職員に船内の案内をして頂いたり、実演を交えた放水訓練を見学しました。

　参加したほとんどの団員等は、消防艇の乗船や放水訓練を見学するのは初めてで、特に放水訓練では歓声があがりました。

南勢団

☆一年ぶりの耐寒訓練☆

　昨年コロナ禍で中止を余儀なくされた耐寒訓練を1月22日に実施しました。

　当初は、海洋少年団だけの予定でしたが、町の広報で呼びかけたところ、保育園児、児童・生徒や保護者等の参加希望があり、25名で出発しました。

　午前8時に南伊勢町町民文化会館を出発し、切原から剣峠を通って伊勢神宮を目指しました。途中剣峠で休息し、記念写真を撮りました。その後は参加者の体力に合った速さでゴールを目指しました。中には走っている人たちもいましたが、4～6時間ほどで全員到着し、着順カードを手渡し無事終了しました。

　どの顔も疲れはあったものの、最後まで歩き終えたという達成感であふれていました。

☆今でも繋がっている素敵な出会い☆

　私の好きなTV番組の一つに「沁みる夜汽車」というのがあります。

　先日、卒団した団員から心に沁みるメッセージが届きました。全国の皆さまも、指導者冥利に尽きることはあるかと思います。ここに紹介させていただきます。

（団長　橋川　玄）

徳田　団長お久しぶりです。2006年のカナダ派遣で出会ったアナに会いにイギリスへ旅立ちます。

団長　コロナに気をつけて楽しんできて下さい。

徳田　ありがとうございます。素敵な出会いをくれた海洋に感謝しています。ほかの子とも文通など続いています。カナダでの経験が今の自分を作っていると思っていて宝物のように感じています。

当時の徳田さんとアナ

　コロナ禍で国際交流も難しいかと思いますが、海洋でしか出来ない国際交流があると思うので陰ながら応援しています。

団長　泣けるなあ。ありがとう。

徳田　こちらこそ旅行楽しんできます。

神戸団

☆クリスマス会☆

　12月11日、神戸団の2022年最後の活動を無事終了しました。

　3年間コロナ禍が続きましたが、この日は久しぶりのピザパーティー＆ビンゴ大会を開きました。30人前のピザとプチケーキ等が一挙に胃袋に収納され、団員たちの食欲には驚かされました。その後は、ビンゴ大会で団員たちの笑顔と成長ぶりにリーダー達の喜びもひとしおでした。

　来年も、この元気な勢いで航海（活動）を続けましょう。

姫路団

☆姫路港海フェスに出展☆

　10月23日、快晴の姫路港において開催された「海のフェスティバル」に参加し、市民とのふれあい、新入団員募集活動、他団体との交流等充実した一日となりました。

　出展ブースでは、ロープワークの実演をはじめ、団員が子供たちに船のカレンダーを1枚ずつ配布したり、折り紙を教えたりして交流を深めたり、広報活動にも努めました。

　その後の舞台では、団員代表による手旗信号（原画（げんかく）文字）の披露を行い、観覧者から称賛を得られたことは、これからの団活動へ大きな自信となりました。

連盟だより

1　沖縄地区連盟主催の指導者養成研修へ講師を派遣

　1月16日、宮古島団の指導者充実のため、5名が参加し研修が行われました。

　引き続き1月18日、新たな那覇団の立上げメンバーに対する指導者養成のため、3名が参加し研修が行われました。

　研修には沖縄地区連盟の要請を受けて、日本連盟から講師1名を派遣しました。

　それぞれの研修で活発な意見交換も行われ、今後の沖縄地区での海洋少年団活動の活性化に期待します。

2　新年度カレンダーができました

　昨年度に引き続き、令和5年度のカレンダーを作製しました。ご活用下さい。

3　我ら海の子展展示情報及び募集について

　今年度の我ら海の子展受賞作品展の最後の展示会場は、神戸海洋博物館（兵庫県）3月28日～4月9日です。

　また、1面にあるとおり、4月から第51回の作品の募集を開始する予定です。

　日頃から海に親しんでいる団員の皆さんの作品をお待ちしています。

みどりの広場

「ゴミが多いビーチクリーン」

宜野湾はごろも団　星野　大侍郎

　とかしき島に行って、ビーチクリーンでゴミを拾いました。かん境をまもるためだから、ぼくは、がんばって拾いました。水クラゲの死がいや兄が大きなゴミを取ろうとしていたので、とてもおどろきました。だからぼくは、ゴミのポイすては、いけないと思いました。

　ゴミはポイすてだけではなくて、「色々な国から流れて来たんだな」と思いました。ゴミ拾いが終わったあと泳いで遊びました。りく地にはゴミがいっぱいあるけれど海の中はきれいでした。

　バスで青少年の家に着いたら「ふとんたたみは自分でやって下さい。」といわれたので、自分のことは自分でやるのだと思いました。

　とかしき島の子達とバーベキューをしたりいっしょに星を見たりして楽しかったです。

　そして青少年の家に戻ってねました。朝になって、ぼくはふとんをたたんでバスでヨットを置いた場所に行ったら、とかしきの子達が見送りに来てくれました。

　この旅で一番心にのこったことは、行きのこう海中にたつまきやかみなりや大雨にあったことです。ぼくは、はじめて、たつまきを見ました。船長さんがすぐに、たつまきからはなれたので、安全にとかしき島に着くことができ、まわりをよく見ることが大切だと思いました。

　またヨットでみんなとどこかに行きたいです。あと、とかしき島のかん境が知れてよかったです。

（連盟より）たくさんの作文のご投稿ありがとうございました。一部しか紹介できず申し訳ございません。引き続き、皆様からのご投稿をお待ちしています。